

2017年7月25日

各位

大阪製鐵株式会社

クラカタウ・オオサカ・スチール（KOS）社竣工式について

2017年7月20日、当社子会社であるクラカタウ・オオサカ・スチール（KOS）社は同社敷地内にて竣工式を開催いたしました。出席者は約300名で、インドネシア政府のハルタルト工業大臣、石井駐尼大使、同国政府関係者、主要取引先等に多数ご出席していただきました。

KOS社は、大阪製鐵（持分80%）と国営クラカタウ・スチール（持分20%）の合弁会社で、生産能力は年間500,000トン。中小形形鋼、棒鋼等の製造を行ない、主にインドネシア国内市場で同社製品の販売を開始しております。

工場はバンテン州チレゴン市のクラカタウ工業団地内にあり、2015年3月に建設着工、2016年12月に完成、本年1月には商業生産を開始しました。その後も品種、サイズ毎に同国のSNI工業規格取得拡大を進め、製品の品種、サイズを広げております。

形鋼と棒鋼は土木、建築分野では幅広く使用される鋼材で、現在、インドネシア政府にとって同国のインフラ整備プロジェクトは優先課題であることから、その一つである電力増強計画に対し、国際標準でも寸法、形状に優れた形鋼を送電鉄塔建設やその他構造物の用途向けに供給を進めていく予定です。

高速道路や鉄道建設工事に対しては、施工性が高く工期短縮が期待できる直径50mmの太物鉄筋棒鋼S50の営業活動を進め、インドネシアでS50を製造する最初のメーカーとして、SNI工業規格も既に取得しております。

KOS社の高橋政宏社長は、「インドネシアの増大する鋼材需要に対し高品質の鋼材を供給することで、インフラ開発と経済成長に貢献していきたい」と抱負を述べ、この信念は同社の“インドネシアと共に成長”というスローガンにも反映されております。

以上